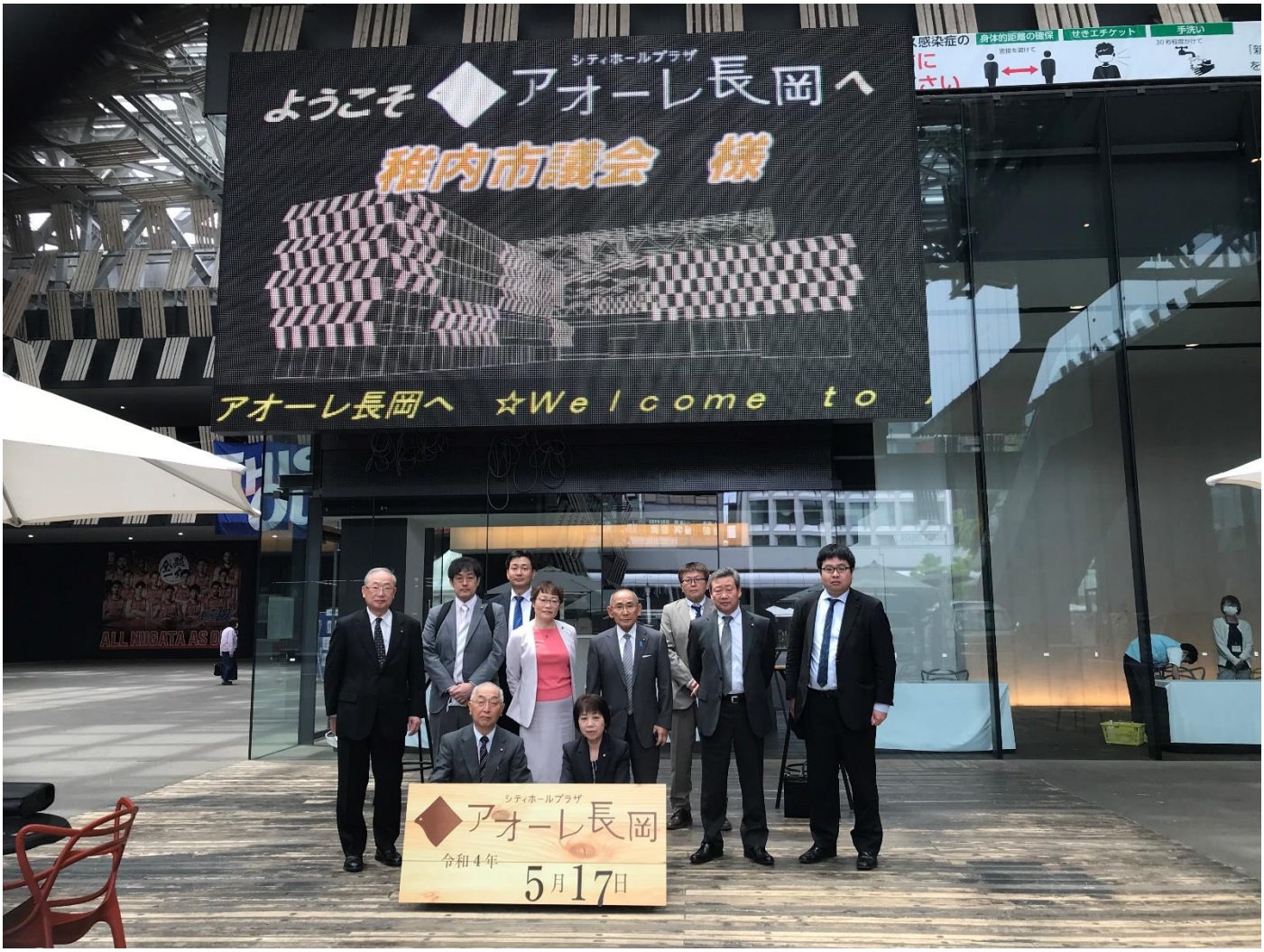
令和４年度
民生文教常任委員会行政視察報告書



期　間：令和４年５月 16 日～19 日まで

訪問先：新潟県長岡市、新潟県新発田市

◎民生文教常任委員会　行政視察復命名簿

●議　員

委 員 長　　吉田　孝史

副委員長　　近藤　文恵

委　　員　　伊藤　正志

委　　員　　吉田　大輔

委　　員　　中村　公博

委　　員　　松本　勝利

委　　員　　中尾　利一

委　　員　　相内　玲子

●参与

生活福祉部生活衛生課

課　　長　　太田　　潤

●事務局随行

主　　事　　小野寺　太一

５月１７日（火）

新潟県長岡市

○市の概要

・長岡市の中央部は信濃川により形成された沖積平野に位置し、江戸時代には長岡藩の城下町として栄えた。

・県内では新潟市に次いで第 2 位の人口を持ち、中越地方では最大の人口を有する。施行時特例市に指定されており、長岡まつり大花火大会で知られている。・高度な技術力を有する機械金属業や関連企業が多く立地し、「先取さきどり・勤勉・実直」な京丹後人の気質に満ちた街となっている。

・日本有数の豪雪地帯であり、市街地に設置されたアメダス「長岡」では 1981 年（昭和 56 年）1 月 21 日の 212 cm など過去に記録的な豪雪を何度も経験している。最深積雪の平年値（1991～2020 年、気象庁）は 89 cm であり、青森（101 cm）や札幌（97 cm）などと並ぶ有数の都市である。

R2 年		長岡市	稚内市
人口		266,936 人	33,032 人
	世帯数	108,352 世帯	17,635 世帯
	人口増加率（住民基本台帳）	△0.9%	△5%
	年少人口比率	11.8%	10.50%
	老年人口比率	31.21%	33.1%
面積（㎢）		891.06	760.8
予算総額		215,073,100 千円	45,679,000 千円
財政力指数		0.62	0.38
一般職員数		2,148 名	314 名
議員定数		34 名	18 名

調査事項　ふれあい収集事業について

場所　長岡市役所庁舎

１．選定の背景及び目的

・長岡市では、平成 16 年から家庭ごみをごみステーションに持ち出すことが困難な高齢者又は障がい者が属する世帯に対して、無料で個別収集を行う「ふれあい収集事業」を行っている。

稚内市においても、「ごみ問題」は喫緊の課題となっており、ごみの収集方法についても新たな手段を考える時期にきている。長岡市は 11 の市町の合併が行われており本市と同様に広大な行政面積を抱え、また、積雪地帯であることから長岡市の事業を本市の課題の解決に活かすことを目的とする。

２．　事業概要

①　「ふれあい収集事業」について

・家庭ごみをステーションに出すことが難しい、高齢者や障がい者のみで構成されている世帯に対し、戸別に訪問し無料で収集。

収集日については、週に１回決められた曜日に、ごみと資源物を分別（指定袋等）して収集を行っている。

・利用までの流れは、利用申請を受付後、環境業務課担当者・ケアマネジャーなど世帯の状況を把握している方が同席して対象者の自宅を訪問し、世帯員の状況調査、収集日、ごみの置場所などを確認して決定する。申請翌週から収集を開始できるよう取り組んでいる。

・対象となるのは、

(1) 高齢者（おおむね 65 歳以上の者で、介助又は介護を要する者）

(2) 障害者（障害者基本法【昭和 45 年法律第 84 号】第 2 条に規定する障害者　【その障害の種類が聴覚障害のみである者を除く。】であって、介助又は介護を要する者

(3) その他、高齢者又は障害者が属する世帯であって、当該高齢者又は障害者を介護する者がいない等の、当該世帯の世帯員が家庭ごみをごみステーションまで持ち出すことが困難であることに正当な理由があると認めるもの。

・ごみの出し方としては、ごみ保管用の「ふた付きのポリバケツ」や「ボックス型のごみ箱」を各自用意してもらい、世帯ごとので決められた収集日時の前までに玄関先等に出しておいてもらう。その際に在宅している必要性はない。

・ふれあい収集においても、分別はきちんとして貰うようにしており、分別がきちんと出来ていない場合については利用者に対し指導を行う。

・日常的に声かけは行っていないが、しばらくゴミが出ていない等の異常が見られた場合は収集員の判断で声かけを行っている。

・収集員に関しては、旧長岡市の範囲（現在の長岡市は平成 17 年の 6 市町村が合併して誕生）は市の直営で、それ以外の地域についてはシルバー人材センターに委託（一部地域は地元企業）

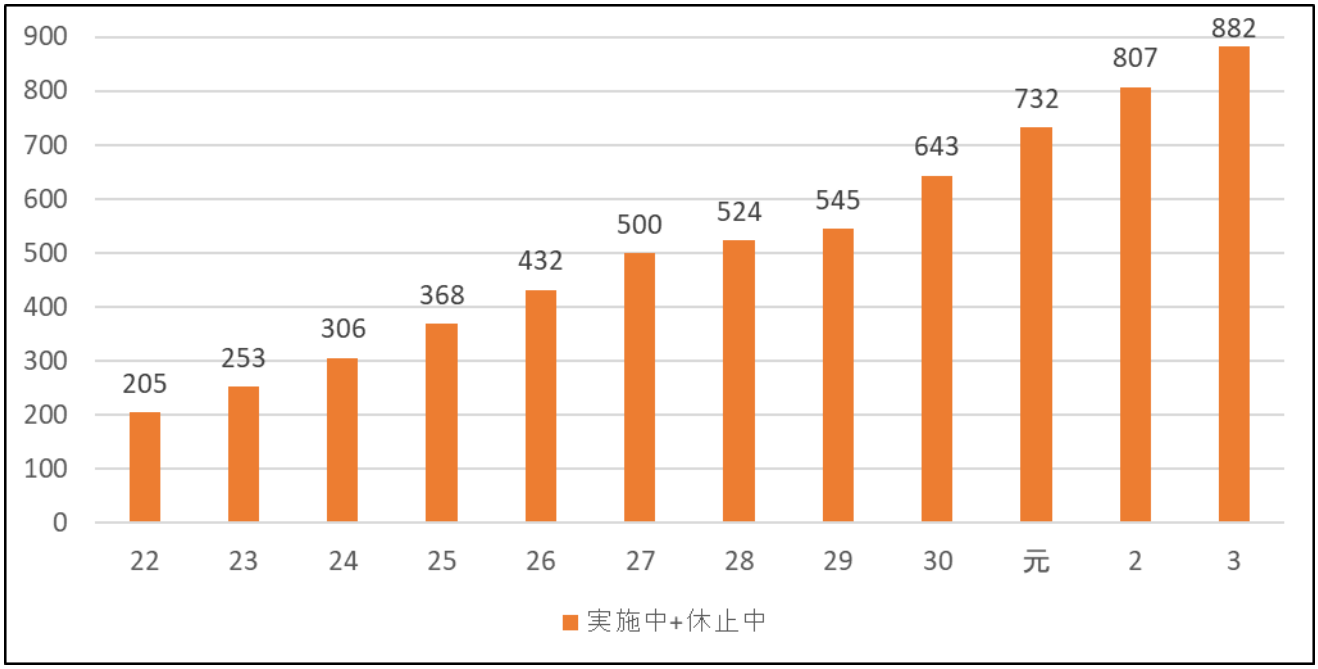
1 収集方法

地域名	収集形態	収集日	搬入先（ごみ置き場）	搬出
長岡	直営（3台）	月～金	処理施設	
中之島	委託（シルバー人材センター）	水	中之島支所	直営収集
越路	委託（シルバー人材センター）	火	越路支所	直営収集
三島	委託（シルバー人材センター）	木	処理施設	
山古志	委託（山古志自動車）	火	山古志支所	委託収集
小国	委託（シルバー人材センター）	火	小国支所	直営収集
和島	委託（シルバー人材センター）	金	処理施設	
寺泊	委託（シルバー人材センター）	金	シルバー人材センター寺泊事務所	直営収集
栃尾	委託（シルバー人材センター）	木又は金	栃尾市民会館裏	直営収集
与板	委託（シルバー人材センター）	金	処理施設	
川口	委託（シルバー人材センター）	水	処理施設	

長岡市の各地域と地域ごとの収集方法

３．事業の成果

・平成 22 年の利用人数は 205 人だったのに対して令和３年のは 882 人となっており、年々利用者が増えており、市民にもしっかりと認知された制度となっている。



ふれあい収集年度別実施件数推移

・認知症の方や障がい者の方がこの制度を利用することで、町内のステーションに分別されてないということが無くなり、収集でいないといった事例が減ったと感じる。また全国的に俗にいう「ごみ屋敷」といったものが社会問題化しているが、この制度を利用して貰うことで、ゴミが家の中に溜まらなくなり、ゴミ屋敷対策に寄与出来ていると思う。

・制度を利用する本人たちの助けになっているのはもちろんだが、収集を行う前では、親族の方がゴミ出しを行っており、少なからず負担になっていたが、ふれあい収集を行うことでだいぶ楽になったというお声も頂いている。

４．課題と今後にむけて

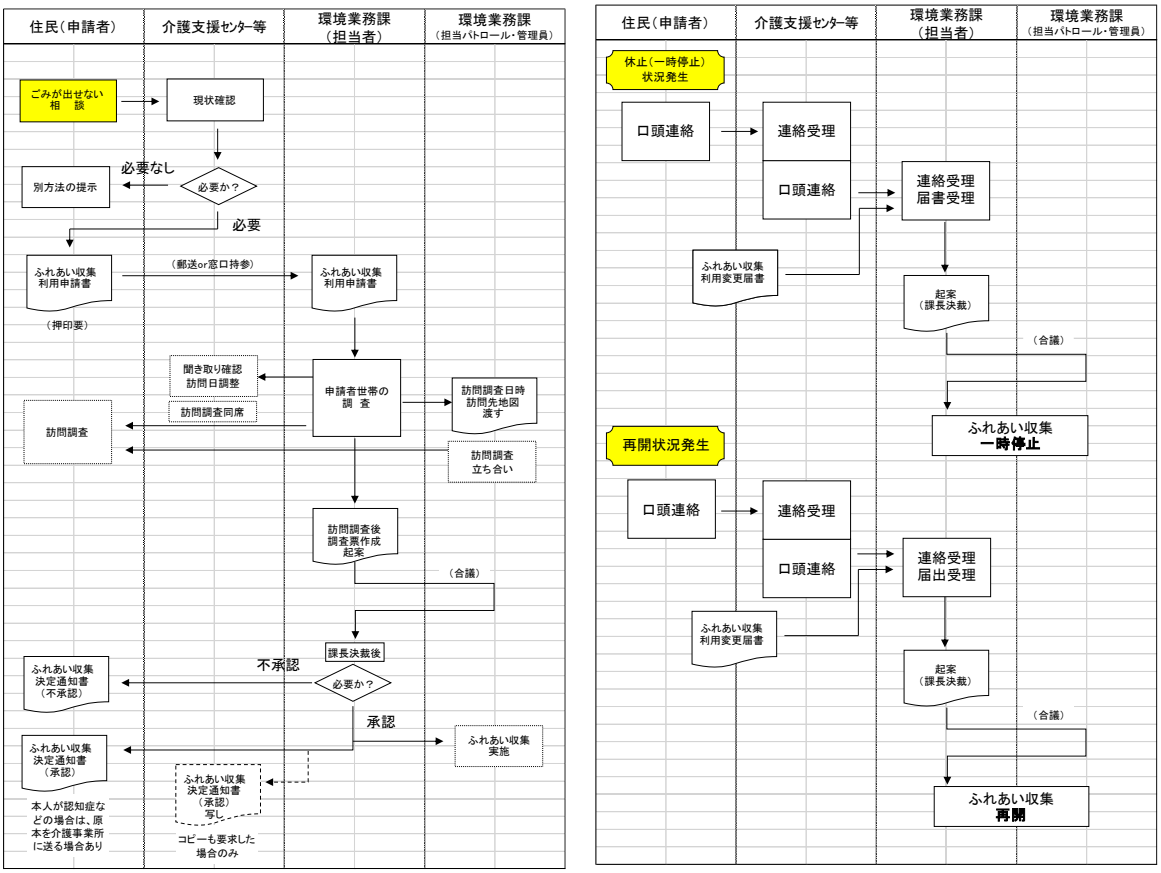
・人口が最も多い長岡地域については、市の直営で環境業務課の職員が回収を行っているが、その担当職員が退職し補充が無く、今後、長岡地域

の収集に支障がでる恐れがあり、どうふれあい収集を維持していくか検討が必要となっている。

・対象世帯の基準について、同じようにふれあい収集を行っている自治体では介護認定を行っている世帯にしか行わないといったような基準を設けているが、長岡市では基準がない。基準がない分、幅広に申請して貰うことが出来るのだが、もうちょっと頑張って貰いたいというような世帯からも申請がきてしまう。

・利用開始時には、ケアマネージャーの方から申請等のやり取りを行っているが、ケアマネージャーの変更等の通知がされず連絡が取れなくなるといったことが出てきている。利用者が長期入院している、亡くなった等の情報はケアマネージャー経由で確認を取ることが多いので、そういった連絡が取れない場合、実態の把握が難しくなる。

・申請の際にはケアマネージャーの連絡先も併せて提出して貰っているが、民生委員ではダメかといった声も聞かれる。しかし、民生委員の方は高齢の方が多く、連絡を取ったら、もう民生委員を引退した、あるいは民生委員の方が長期入院をしているといった事もあったため、ケアマネージャーの方としているが、それでも、いざという時に連絡が取れないといった事が発生している。



利用開始時・利用中止時のフローチャート

５．質疑

質問：事業名が「ふれあい収集」となっているが、本人と「ふれあう」ことは基本的に調査時だけなのか。

回答：直接ふれあうということではなく、この事業をそのままの名称にした場合、「ゴミ出し困難者に対する戸別収集」となってしまう。そのため　、事業に対して柔らかいイメージを持って貰うため、「ふれあい収集」と名付けた。

質問：一定期間ゴミの収集が出ていない場合、声掛けを行うとの事だが、例えば何回ゴミが出ていなければ声をかけるといった対応基準があるのか。直営と事業実施先が分かれているので、共通した基準が必要ではないか。

回答：利用者の実態によって、毎回ゴミを出す世帯もあれば、不定期に出てくる世帯もあるため共通した基準は作っていない。

質問：豪雪地帯であるが、冬期間も玄関先にゴミをだすことになるのか。

回答：基本は玄関先となっているが、玄関先に出せない場合は状況により対応している。

質問：冬期間のゴミ出し対応について、豪雪地帯で玄関先にポリバケツ等の設置は可能なのか。また鳥獣被害による被害は出ていないのか。風によってゴミバケツが倒れたりはしないのか。

回答：豪雪地帯ではあるが、地下水を利用した消雪パイプにより積雪を軽減しており、玄関先のゴミ出しに問題は生じていない。鳥獣等による被害も発生しておらず、風対策としては、バケツの底に重しを入れている。

質問：ふれあい収集とは別になるが、稚内市の一般廃棄物は天蓋付き埋め立て処理となっており、今後、焼却処分等、新たな処理方法についても検討していかなければならないと思っているが、長岡市の現状は。

回答：長岡市では、「燃やすゴミ」と「燃やさないゴミ」に分けており、「燃やさないゴミ」は破砕した上で埋め立て処理、「燃やすゴミ」は焼却後に埋め立て処理をしている。

６．委員所感

〇自分は、かつて「ごみ収集とごみ処分こそ、本当の公共サービスの一つ併せて、である」と教わった。これを有料化に踏み切ったことで、本市のように収集事業を町内会や委託業者に委ねることとは別に、行政には、従来以上のごみ収集・ゴミ処分への取り組みへの重要性があることは言うまでもない。その一つとして、長岡市の「生活弱者」へのキメ細かな収集業務は、大いに参考にしたい。

〇「ごみ収集」と「安否確認」とは言うものの、現在までのところはごみ収集に軸足がおかれており、安否確認については３者が携わっている事業ながら明確な基準が無かった。また、事業を利用しなくなった後には登録を解除する必要があるが、解除の手続きを行わない例も珍しくないのとのことで、数週間ゴミ出しがないことをきっかけに、初めて利用者が転居・入院・死去等で不在となったことが分かることもあるという。
主にこの２点が稚内市で導入することになったときには検討が必要と感じた。

〇週一でもサービスとしては本市でもあれば大変助かるサービスだと思う。安否の確認、ごみ屋敷の減少など利点もある。本市も高齢化率が高くごみステーションが家の前にあっても、その少しの距離で冬場であれば高齢者が転倒、骨折等の事故が散見される。ぜひ長岡市を参考にしながら本市にあったサービスを作ってもらいたい。

〇今後、高齢化が進む中、ヘルパーの人材不足の影響を受ける可能性、また、別居家族の支援についても長期にわたると困難になってくるなど、ふれあい収集を利用せざる得ない人が出てくるものと思う。そのためにも、本市においても取り組んでいくべき事業と考える。

５月 18 日（水）

新潟県新発田市

○市の概要

・新発田市は、越後平野（新潟平野）の北部に位置し、県都新潟市に隣接する阿賀北の中核都市。江戸時代には十万石の城下町として栄え、現在も歴史的遺産をまちの随所にとどめている。

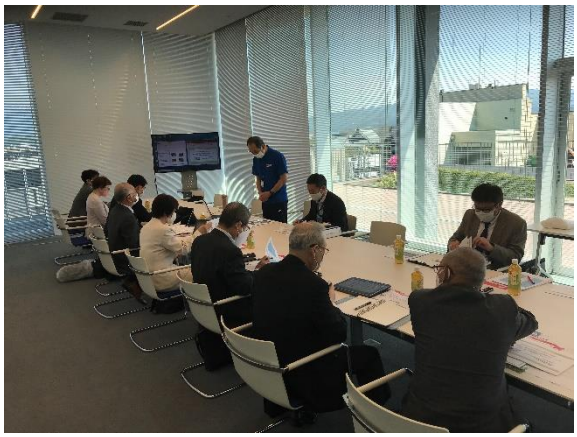
・全国的にも有名な月岡温泉や、四季を通じて楽しめる山から海までの豊かな自然など、観光資源が充実している。また、かつて東洋一といわれた堤防を有する加治川が潤す肥沃な土地の恵みを受け、県内有数のコシヒカリやアスパラガスなどの農産物の産地でもある。

・市全域が国から豪雪地帯の指定を受けるが、特別豪雪地帯には指定されていない。県の観測によれば、市街地の新栄町における年累計降雪量および最深積雪の 1994-2019 年度の平均値はそれぞれ 244 ㎝、48 ㎝であり、新潟市中央区美咲町の 131 ㎝、30 ㎝と比べてやや多い、一方、山間部の赤谷では最深積雪が 2 ｍを超える年もある。

R2 年		新発田市	稚内市
人口		94,927 人	33,032 人
	世帯数	17,635 世帯	18,111 世帯
	人口増加率（住民基本台帳）	△7.7%	△5%
	年少人口比率	10.50%	11.80%
	老年人口比率	33.1%	28.90%
面積（㎢）		533.11	760.8
予算総額		52,756,486 千円	45,679,000 千円
財政力指数		0.49	0.38
一般職員数		772 名	314 名
議員定数		25 名	18 名

調査事項　総合型地域スポーツクラブについて

場所　新発田市役所



１．選定の背景及び目的

・稚内市においても総合型地域スポーツクラブについては、地域のスポーツの推進や、学校の部活動と連携することで教員の負担軽減にもつながるとして議会でも度々質問を行ってきた項目でもあり、令和４年度中の設立を目指し、検討が進められている。

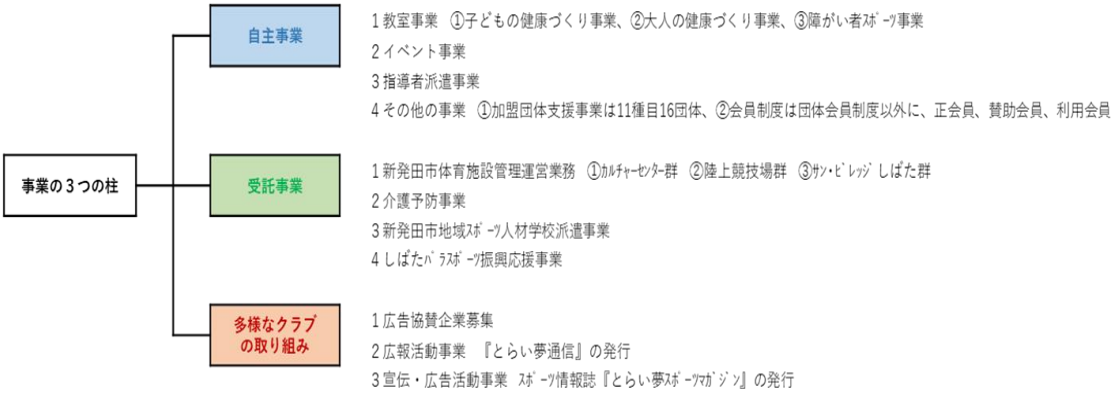
　新発田市では平成 17 年から総合型地域スポーツクラブ「とらい夢」を設立し、17 年間運営してきた実績がある。そのため、その取り組みを本市の参考し、今後設立される統合型地域スポーツクラブに反映するため視察した。

２．事業概要

・平成17年に開設、平成18年にNPO認定を受け法人登録となった。

・子どもからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを目指し、全世代に向けたスポーツ教室の開催、とらい夢カップ等の大会、イベントの開催、指導者の派遣、スポーツ施設の管理・運営を行っている。

・「自主事業」、「受託事業」、「多様なクラブの取組」を三つの事業を柱として運営している。



・「自主事業」としては、教室事業として子ども・大人の健康づくり事業や、ミックスダブルテニス大会などの様々なイベント事業、登録指導者やクラブ職員を学校や保育園、企業に派遣する派遣事業などがある。
・「受託事業」としては、新発田市体育施設管理運営業務、新発田市介護予防業務、しばたパラスポーツ振興応援事業などを行っている。
・受託事業の中で運営上大きいものが「新発田市体育施設管理運営業務」で令和２年度では8,170万円の収入となっている。
・平成24年から上記の大型体育施設の管理を受託しているが、それ以前ではクラブの職員は5名だったが、受託後には新たに27名の職員を採用。全ての職員をクラブ雇用し様な事業を展開することが出来るようなった
・「多様なクラブの取組」としては、広告協賛企業募集やとらい夢通信、とらい夢スポーツマガジンの発行、寄附募集を行っている。
・とらい夢通信、とらい夢スポーツマガジンは市内に全戸配布を行っており、市民のとらい夢に対する理解と認知度上昇に貢献している。
・寄附については令和２年度の実績で、244件で約122万円の寄附が集まっている。また、「認定NPO」の基準として「1年間に3,000円以上の寄附が100件以上平均の数値で5年間継続すること」となっている。「認定NPO」となっていることで様々なメリットが有るため、そういった意味でも大切な事業となる。

「とらい夢通信」と「とらい夢マガジン」

４．課題と今後について

・人材（スタッフ）の確保が非常に重要。受託事業の部分でも触れたが、安定的な事業運営には一定程度の人材、マンパワーが必要で大型体育施設の管理をさせて貰うことによってようやく経営の基盤ができたが、それまでは大変だった。
・財源の確保といった面では大型体育施設の管理以外にも、行政からの支援で施設使用料を10割減免して貰っており、体育館を利用教室事業などが幅広く行えている。
・他にも介護予防事業など100万、200万の大口の業務委託も非常に重要で、今後もどれだけそういった事業を継続できるかが財源確保につながる。
・指導者の確保についても、事業規模が小さい時期はクラブお抱えの指導者という形だったが、それでは指導者の生活が成り立たず、成り手もいない。教室の数を増やし指導者がプロの個人事業として収入が安定し成り立つ仕組みづくりが指導者の確保にもつながる。
・今後、さらに教室事業を拡大していくには会場として有料施設を利用していく必要があり、有料施設の使用でクラブの経営が成り立つか検討していく。

５．質疑

質問：総合型地域スポーツクラブ設立に向け進めていく上で、時間をかけｽﾎﾟｰﾂ協会や中体連等の関係機関協議を進めていくことが重要だと思うが、当市の担当者は一緒（費用・人材・プログラム）にして焦りながら進めている状況が見られることから進め方についてアドバイスがあれば。

回答：マンパワーが増えることで事業が動き出すことになる。３つ（費用・人材・プログラム）のどれかが充実することにより他も充実すると思う。しかし一番は財源確保が重要となる。部活動については、新発田市でも学校教育課から話があり、総合型が部活動にどのように対応できるか検討している。他の先進地では、一つの自治体に中学校が１～３校までだと総合型がうまく回っていくと伺っている。新発田市は広い地域に中学校７校が点在しており総合型クラブ１つで広い範囲を、誰がどの部活動をしたいのかなどのニーズを捉えカバーしていくのかなどの課題がある。稚内市の人口規模だと総合型１つで対応していければ理想的ではないかと思われるが、広いエリアをどの様にカバーしていくかは行政の皆さんとよく話し合って行くことが重要だと思う。

質問：スポーツ協会でも独自事業を行っている部分もあると思うがそことのすみ分けはどうなっているのか。

回答：新発田市スポーツ協会は競技団体としての色が強く、市民の健康増進などは地域総合型が担当しているなど役割分担が出来ている。
また昨年度からスポーツ協会で地域総合型の事務局業務（会議・会計）を請け負っており、スポーツ協会の会長が地域総合型の理事長となっていて、すみわけが出来ている。

質問：教員の働き方の改革、負担軽減の観点から部活動をスポーツクラブに担って貰うということについてはスポーツクラブとして検討はしているのか。

回答：教育委員会が、中学校の部活動を地域移行するため昨年協議会を立ち上げ協議を進めている。今年から市内の部活動の特性を考え、陸上や野球など、テスト的にいくつかの種目をピックアップして、段階的に進めようとしている。

質問：もし総合型で部活動を受け入れる場合、学校現場との調整は教育委員会が中心なのか、スポーツ競技団体なのか。

回答：基本的には学校との調整は教育委員会で行い、それを吸い上げた段階でスポーツ関係部署が対応を協議会の中で検討する。
昨年は部活動の地域総合型への移行について、色々な研修会等へ参加してきた。その中で、大きな課題として指導者に対する謝金が必要になり受益者負担が発生し、賛同する保護者・家庭と、賛同できない家庭の価値観をどう埋めていくかが大きな課題。

質問：市の職員と「とらい夢」職員の待遇の違いは。市より職員賃金に対する待遇補填などあるのか。

回答：賃金は市職員の７割程度。基本民間なので補填はない。

質問：総合型スポーツクラブを運営するうえで、財源の確保が最重要との説明であったが、市からの受託業務（施設管理等）が大きな財源ウェート占めている状況で、新発田市は総合型スポーツクラブに優先的な対応を図っているのか。

回答：総合型スポーツクラブへは、体育施設管理運営業務など優先的に随意契約を行い経営の安定化に協力している。

６．委員所感

〇総合型地域スポーツクラブの大きな目的としての、地域住民の健康増進というところに寄与する事業であったが、部活動支援という部分おいては残念ながらまだそれほど進んでいないようであった。どちらが重要ということではないが、本市においては健康増進事業については各種色々取り組まれているが、部活動支援は進んでいない現状を考えると、総合型地域スポーツクラブの運営には、まずは部活動支援を進めて頂きたいと思うところであるが、経営面の話を伺うと改めてその壁の高さを感じた。

〇稚内市としても各学校のクラブ活動の指導者を教員から民間指導者に置き換え、教員の負担軽減を図ることや、子どもや高齢者、全ての住民がスポーツに取り組む環境を作る上で必要なものと考える。問題は、民間法人として資格者職員の確保が可能か、また、法人資本や予算の確保が可能か等、課題が山積していることも事実と感じている。給与一つとっても行政職員との格差が大きいと感じるので、地域スポーツクラブの実現・維持については、行政の相当の配慮が必要と感じる。

〇委託業務など幅広くスポーツ業務を行っているが、専門員の雇用など人手と賃金をどの様に捻出するかが、課題となっている。スポーツ協会との連携も上手くいっているようで、スポーツ協会はスポーツ技術の向上目指す業務、それ以外を“とらい夢”が、との分担をしている様だ。稚内市に於いては、スポーツ協会が幅広く担ってきているので、業務分担が必要かと感じた。

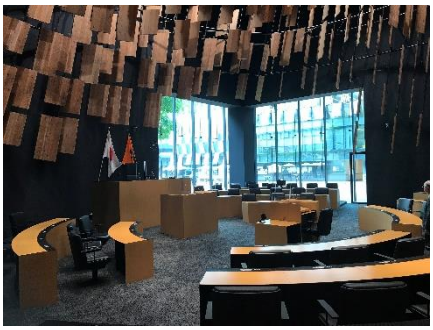
〇運営面については、協賛金や年会費、参加料だけでは賄えず、各種施設の管理運営を委託されて得られる委託料が大きな財源となっており、総合型地域スポーツクラブを成り立たせるためには、施設委託が必須とのことであった。稚内市はまだ本格始動には至ってないが、今後、様々に事業展開する際には、計画・取り組み面と財源を考える際の参考となった。

庁舎視察について

・今回、視察で訪問した長岡市役所、新発田市役所ともに、庁舎の建て替えが行われた自治体であり、調査終了後には議場や庁内の視察を行った。
直接の視察項目ではないが、現在進められている稚内市の新庁舎建設の参考とするため、併せて報告する。

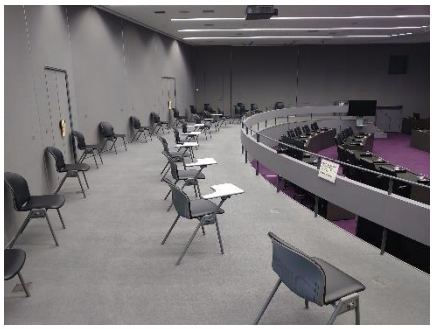
１．長岡市新庁舎「アオーレ長岡」について

・設計は、友好としでもある石垣市役所新庁舎を建設した隈研吾氏。全体構想「アオーレ長岡」は、長岡駅前の1.5haの区域に、長岡藩に伝わる「なかどま」（屋根付き広場）を取り入れ、そこに公共サービスと新世代型交流拠点を融合させたもの。
・交通結節点である長岡駅とはスカイウォークで連結されており、隈研吾氏は『設計に当たっては、市役所を街中へ。併せて、「コンパクトシティ」を意識した、歩いて行ける都心型で市民生活と一体化した交流拠点にしたい。』と述べられたとの事だったが、そのとおりになっていると感じられた。
・視察日は平日であったが、テスト期間であったようで、市役所のあちこちで中高生が勉強をしており、人が集まる市役所として認知されているようだった。
・庁舎は、東棟に行政各部署、西棟には1・２階に「長岡花火をモチーフにした大天井」が表現されている「議場」「議場ロビー」と３階は、すべて「市民交流ホール」4階には議会事務局、委員会室議、各会派室。「議会と市民との距離の近いさ」を感議場は、「市民開放型」になっており、「議会が常に市民に見られ、議場も常に市民に開放されている」感を抱いた。



２．新発田市新庁舎「よりネスしばた」について

・アーケード街の中に建設されており、駅ともほど近い。長岡市と同様に高校生が勉強のために市役所を訪れ、新発田市では、視察を行った議会棟の内のスペースで勉強している学生が来ていたり、キッチンカーによる飲食の提供が行われており、庁舎の存在が住民に浸透していた。

・設計は、「都市空間デザイナー」として名高いヨコミゾ　マコト氏。新発田市においても、長岡市同様に、単に「庁舎建設」ではなく、歴史的に誇りを持て、かつ城郭を残す要衝に、庁舎機能・議会機能・文化スポーツ機能・子育て機能・商業機能を「ヨリネスしばた」（新庁舎）に、併設されている「イクネスしばた」に、教育・食育・育児の複合施設と、「アイネスしばた」に、過去の火災の歴史から学んだ防災公園が、それぞれ、計画的にゾーニングされ併設されており、「アオーレ長岡」を参考に「広場を備える市役所庁舎」としたとのこと。

・「札の辻広場」という３階吹き抜けの全天候型半屋内広場が整備されており、市民のイベントスペースとして利用が可能。また、無料のキッズスペースも設置されていた。側面にはシャッターが備え付けられており、悪天候時や冬期間でも利用できるスペースとなっている。